川へふなをにがす

小川未明

青空文庫

少年は、去年のいまごろ、川からすくいあみで、ふなの子を四、五ひきばかりとってきました。そして、庭においてあった、水盤の中に入れました。ほかにも水盤には、めだかや、金魚がはいっていました。

「けんかを、しないだろうかね。」と、少年は、心配しました。

「入れ物が、大きいから、だいじょうぶだろう。」と、友だちがいいました。

赤い金魚、黄色なめだか、うすずみ色をした、ふなの子は、思い思いに泳ぎまわっていました。まだ小さいから、こんな中でも広い世界と思うのか、満足するように、べつに魚どうしで、けんかをするようすも見えませんでした。

その後、雨のふる日もあったし、また、月の照らす晩もありました。そのうち、秋になり、冬となって、だんだん水が冷たくなると、しぜん魚たちは、元気がなくなって、下の方へ沈んでいました。

「兄さん、ずいぶん魚が、すくなくなったね。」と、弟が、庭へ出ると、いいました。

ともかく、寒い、水の凍る冬をこし、あたたかな春になるまでに、生きのこったのは、わずか五、六ぴきしかありません。その中に、ふなが二ひきいました。

「強いやつばかり、のこったのだな。」

弟は、水盤をのぞきながら、

「ごらん、兄さん、ふなが、あんなに大きくなった。」と、いって、びっくりしました。

「よく生きてたね、川魚は、じきに死ぬんだがなあ。」と、遊びにきた、友だちも、ふなを見て、いまさらのように、めずらしがりました。

それより、少年は、ふつう、飼い魚でもない、ふなのうろこが、水のぬるんだため、紫ばんで、なんとなく野性のにおいがする、すがたをたまらなく、美しく感じたのです。

「小さいうちから、この入れ物の中で、そだったので、生きていたんだね。」と、友だちはいいました。

これは、子どもらにとって、うれしいことだったけれど、また、ふなの身になって考えれば、かわいそうなことでもありました。川を知らないふなは、おそらくここをすみかと信じ、安心しているのだろうけれど、だれがふなに川を知らせなかったのかと、子どもらは思わずにいられませんでした。

ある日、金魚屋が、家の前を通りました。その声をきくと、少年は、あの目にしみるような、赤いいきいきとした色がちらつき、じっとしておれずに、弟といっしょに外へとび出しました。今年も、金魚を買って水盤へ入れると、新しく仲間入りをした金魚は、さすがに飼い魚だけあって、あわてずゆうゆうと、長い尾をふりながら、花の咲くすいれんのかげを、いったり、きたりしました。ふなはいつものように、かくれていて、すがたを見せませんでした。

午後から、急に空が暗くなって夕立がきそうになりました。兄弟が、縁側で話をしている

と、ぽつりぽつり雨がふりだしました。

「いい雨だね。」

「ああ、これで野菜が生きかえるよ。」

見ると、水盤の面にも、さざなみが立っていました。このとき、

パチン！　と、水音がして、ふなが、二、三寸も高くはねあがりました。

「川だと思って、喜んだのだね。」と、弟が、目を輝かせました。

その夜は、たくさん星が出て、空が洗われたようにきれいでした。少年は、いまごろ川では、魚たちが、流れを、自由に上ったり下ったり、するであろうと、その姿を想像したのです。もし、人間でやさしい心をもっていたら、こんなせまい入れ物の中へ、魚を入れておくのを、わるいと思わぬものはなかろうと、考えたのです。

あくる日、少年は、弟をつれて、ふなを川へにがしにいきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　14」講談社
　1977（昭和52）年12月10日第1刷発行
　1983（昭和58）年1月19日第5刷発行
底本の親本：「太陽と星の下」あかね書房
　1952（昭和27）年1月
※表題は底本では、「川《かわ》へふなをにがす」となっています。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：酒井裕二
2018年4月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

川へふなをにがす

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/